

新型コロナウイルスに対する OMF の対応について

2020 年 4 月

現在、新型コロナウイルス（COVID-19）は、各国で感染拡大を続けており、東アジアにおける OMF の働き、そして各国の OMF 支部もその影響を大きく受けています。しかし、現在この執筆の時点では、感謝なことに OMF ワーカーの中で陽性と診断された者は出ておりません。

OMF インターナショナルがこの状況に際し、どのように対処しているかを、皆様にご報告させて頂きたく存じます。

感染拡大が続く中、OMF はワーカーを感染から守るべく様々な対策を講じています。

- 感染状況を監視し、対応を検討・調整するための国際危機管理チームを設立。
- 国際医療チームによる感染拡大の推移の監視。同チームは 2 月初旬から、最新情報及び感染リスクを軽減するための実践的ステップといったアドバイスを OMF ワーカーに定期配信中。
- より現場に近いレベルとしては、現地での感染拡大や、その場合に起こり得る影響に対応できるよう、各宣教地のリーダーチームと医療アドバイザーが、ワーカーたちに相応の準備をし、緊急時の対応策を考えておくよう支援。
- 現地政府から出される渡航制限や、刻々と変化する勧告にどう対応すべきかについて、各国のチームリーダーたちが各ワーカーと緊密に連絡をとりつつ指示。

状況が進展する中、OMF は以下をキャンセル、もしくは延期といたしました。

- OMF ワーカーが実際に一つの場に集まるイベントや集会
- 支援者のためのイベント（情報交換の夕べ、宣教イベント、直接に相對しての祈り会等）
- 今後 3 か月間（6 月 16 日まで）に予定されていた短期宣教プログラム。それ以降の今年の派遣については、今後数週間以内に決定される予定。

加えて、各政府から奨励に従い、多くの OMF 支部は事務所を一時閉鎖し、各スタッフには可能な限り自宅で勤務するよう指示しました。

国によっては、政府が国民に母国に戻るよう強い奨励を出している所もありますが、リスクの高い状況にない限りにおいて、OMF はワーカーに対し、この状況にあっても働きを続けるよう勧めています。このような危機的状況においては、多くの場合“平常時”以上の証や働きの機会が与えられます。しかし、健康面やその他の理由により、母国への帰国を求めるワーカーに対しては、OMF はその事情を理解し、サポートを提供します。

たとどこに身を置いていようとも、OMF ワーカーは隣人に神の愛を示し、キリストの福音を伝え、困難な時期にある地元教会や信者たちを支え続ける道を模索し続ける所存です。

OMF 総裁補佐 サム・ウンデリ

（OMF インターナショナルリーダーシップチームを代表して）